

新潟民商

新潟民主商工会
新潟市中央区沼垂西3丁目10-14
電話 (243) 0141

15 年1 月9 日

太田義郎・全商連副会長が新潟民商役員を激励訪問と拡大行動

全商連って我々のところまで来てくれると思わなかった

三十・三十一日太田全商連副会長(愛知選出・米穀商)が新潟民商を訪ね、支部役員を激励訪問と、読者拡大行動に参加しました。

太田さんは、営業の様子を聞いて、「中小業者が大切にされる社会をつくろう。ドイツは職人を大切にし、職人は収入を保障され、大学教授あつかいになっている。」「社会の仕組みがどんどん変わっており、業者の要求運動をシツカリに取り上げ民商を強く大きくしましょう」と語っていました。

しもまち支部には会員拡大顕彰の卵五〇個を

太田副会長から渡してもらいました。

新潟民商は人情が深いですね!

役員訪問は楽しいですね! (太田副会長)

会員からは、消費税から戦争法、BRT、マ

イナンバーなど話題がどんどん出され、一時間

話し込んだところもありました。「全商連の役員

って東京の本部だけにいるのかと思った」「わざ

わざ来てくれたから、読者一名増やしたよ」と

電話をかけてくる会員もいました。

三役・役員二十名と事務局が行動

二日で読者三十四名を増やしました

この日に合わせて三役中心に拡大行動、約五

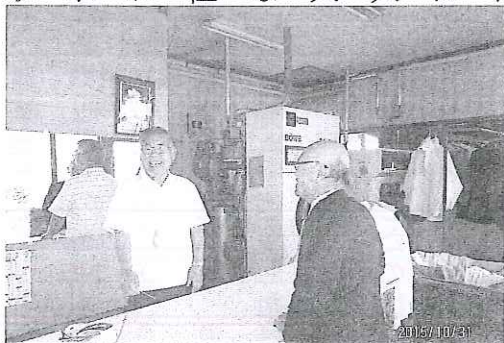
十軒の会員などを訪問、読者三十四名を増やし

十月月の読者拡大は五七名になりました。

一緒に行動した役員・事務局は、「訪ねた会員

は喜んでくれた!我々も会員と話せて楽しかつ

た」など、元気のでる行動でした。



寺尾支部・三富さんのお店を訪問

日程

- 十一月五日(日) 県業者婦人学校(亀田市民会館)
- 十一月七日(火) 法人税学習会
- 十一月二十日(金) 倉敷民商を支援する会
- 十一月二十一日・二十二日全青協総会

マイナンバー学習会

しもまち・中央支部

十月二十九日(木)しもまち十二名、三十日(金)中央七名の参加で学習会が開かれ、号外のマイナンバーQ&Aを読み合わせました。

「生活を支えるためにダブルワークをしている人は課税と徴収が強まる」「生命保険の受取りの際、番号がいろいろしい」「セキュリティ会社に委託しても事業者には責任が課せられる」「従業員からの番号提供が困難な場合は経過を記録しておく」「申告書に番号の記載がなくても受理する。未記載による不利益はない」「米国、韓国でも番号が漏えいし、なりすましによる事件が多発している」「個人番号カードは作らない」「身分証明書の無い人は住基ネットの証明書を取った方がいいよ」「希望すれば番号が記載された住民票が交付される」「制度が機能しないように追い込もう」

いろいろな意見交流ができました。BRTでも、「急行になったせいとか本町・古町は、お客さんが激減している。署名活動しているよ」「ルート変更・乗り換え・料金等、良いことが無い」署名活動あちこちで広がっていきそうです。

BRT直接請求署名・国保署名を至急会員に!

署名の期限は12月28日

支部の必要部数を至急連絡ください!

使いやすい住宅リフォーム助成の戻してください

市住環境政策課交渉に参加ください

11月26日(火)午後1時30分 分館501

本年度一番利用の多かった「一般世帯枠」が廃止され復活を求める声が出されています。議会の保守会派からも、復活を求める意見が出されています。

納税相談中の一方的差押え乱発止めよ

市財務部長交渉近日中に行います!参加希望の方、支部、連絡ください。

大江山支部・共済会学習会

十月二十五日(日) 大江山支部で共済会学習会が開催されました。会場は聖籠町・さぶくん温泉で十名が参加しました。

始めに温泉を楽しんでからの学習会で、学習リーフに沿って共済会の基本やQ&Aなどを学習した後、余った時間でマイナンバーについても学習しました。学習会の後は懇親会で皆、親睦を深めました。



建築部会で市の制度について熱い議論

民商では「健幸すまいリフォーム助成制度の使い勝手が悪くなった」「小規模工事の発注が無い」などの声が出されていることをうけて、建築部会を開催。この部会には日本共産党市議の五十嵐完二さんも参加しました。

交流会では、まず健幸すまいリフォーム制度のことが話題に。「一般世帯枠が減らされ、子育てか介護の世帯しか該当しなくなること、建築業者も消費者も活用意欲が無くなっている」「最高で四〇万円出た補助が今では二〇万円。魅力が無い」などの意見が出されます。「またBRTみたいな無駄遣いをやめさせれば、制度が良くなるんじゃないか」という意見も。こうした意見に五十嵐市議からは「制度は三年に一回見直すのが基本。しかし一番活用されていた一般枠を無くしたのは大問題だ。みんなで声を上げてもらって一般枠の復活をさせましょう」と発言。この発言をうけて十一月二六日に住環境政策課長との交渉することを決めました。

後段は小規模工事のことが話題に。「今年になってから仕事がない」「当て馬みたいな見積もりしかない」「受注業者が決まっているのでは？」などの発言が。市の発注状況を見ると、西区が昨年は約五割を登録業者に発注していたのが約二割まで減っていることがわかって一同びっくり。全体でも工事件数のうち約二五%しか登録業者に発注されておらず、ここを引き上げるのが大切だとわかりました。今後はこの状況を広く知らせ、契約課や区長と交渉して仕事を発注してもらう運動を強めることで一致しました。

全商連「商工新聞中心の活動と

・班支部建設」全国交流会(後篇)

「商工新聞中心の活動と班・支部建設全国交流会に参加して」

新潟民商理事 市橋 雅彰

この様な会議には初めての参加でどの様な内容かと期待と不安がありました。

一日目のパネルディスカッションでは、旭川・神戸・八幡民商の話を聞かせていただき、班・支部活動の基本は商工新聞なのだということを再認識しました。

特に旭川民商の斉藤さんが話しておられた、事務局主導の民商から役員中心の民商への転換への話が新潟に持ち帰り実践していければと思いました。

二日目の分散会では、商工新聞をどう活用し

ていくのか！うまく自分自身が活用していくことが結果的に内容を熟知していくことにより署名が延びていく。新聞を活用していけばいく程、商工新聞の価値が上がっていくのではないかと思います。

